

令和7年度事業報告

● 基本方針

昨年は「アイヌ施策推進法」施行後5年を経過した見直しの検討がアイヌ政策推進会議において行われ、アイヌ民族政策の継続推進と差別を抑制するための人権啓発の強化が示された。

アイヌ施策推進法に基づく交付金事業については、道内36自治体、道外1自治体において展開された。交付金活用のない自治体に当会理事長が適宜訪問し、積極的活用を促した。

「民族共生象徴空間ウポポイ」との連携を深め、当会がウポポイ体験ホールで実施する舞踊披露等を通じて普及啓発を行った。

当会の基盤となる第1類正会員（以下、地区協会）や地区協会本会員との連携を深め、アイヌ民族自らの活動展開と賛助会員の協賛により法人運営の健全強化に努めた。

「アイヌ施策推進法」並びに「北海道アイヌ政策推進方策」による総合的なアイヌ政策が推進されるよう働きかけるとともに、とりわけアイヌの生活向上とエカシ・フチに対する支援策を内閣官房アイヌ総合政策室や北海道選出国會議員に要請した。

1. アイヌ施策推進法の法制理解と利活用
2. 生活向上施策及び文化振興施策の見直しと充実
3. 新法制定を踏まえた組織強化への取組
4. 新法制度の全国展開を見据えた道外アイヌの認定等

< 2つの項目 >

- 1 組織・活動強化の推進
- 2 事業の推進

1 組織・活動強化の推進

1 要請活動等の展開

先住民族アイヌに関する総合的なアイヌ政策を確実に推進していくため、国政や関係行政機関に対し働きかけを行った。

また、北海道大学アイヌ・先住民研究センターと協働し啓発研修活動等を進めつつ、人権啓発活動等に取り組む（公財）人権教育啓発推進センター、反差別国際運動等からの情報入手に努めた。

(1) 「アイヌ施策推進法」の施策活用

アイヌ文化の伝承・保存活動への取組みを推進するため、各地区協会はもとより、各古式舞踊保存会などがこの施策を有効に活用できるよう、事業の周知と実施方法についての助言、助力を行った。

(2) 政府並びに各政党に対する働きかけ

アイヌ民族に対する国民理解の促進や厳しいアイヌの生活に対し、生活向上と子弟教育の充実アイヌ施策の推進についてお願いした。

特に、百数十年にわたる貧困と差別の連鎖の中で悲しい思いをされてきたエカシ・フチが、この国に生まれて良かったと思える政策が促進されるよう要請した。

○政府等

- ・黄川田アイヌ政策担当大臣 令和7年12月13日（ウポポイ慰霊施設）
" 令和8年 3月23日（東京）
- ・金子国土交通大臣 令和8年 2月28日（ウポポイ慰霊施設）
" 令和8年 3月24日（東京）

○政党等

- ・鈴木宗男参議院議員 令和7年6月21日（札幌／北海道セミナー）
- ・北海道選出国會議員 令和8年3月23日（東京／議員会館）
" 24日（東京／議員会館）

○アイヌ政策推進会議

- 令和7年12月13日（札幌）
- ・アイヌ総合政策推進室長との面談 令和7年11月20日（東京）
" 令和7年12月 6日（札幌）
" 令和8年 1月26日（札幌）
" 令和8年 3月23日（東京）

(3) 北海道への対応

- ・加納副知事、高見アイヌ政策監との面談 令和7年 5月 7日（道庁）
- ・北海道アイヌ政策推進方策検討会議 令和7年 6月13日
" 令和7年 8月22日
" 令和7年11月 6日
" 令和8年 2月 5日
- ・北海道議会及びアイヌ議連会長への要請 令和7年11月28日

(4) 民族共生象徴空間の施策推進に対する働きかけ

ウポポイの啓発パンフレット等を公共施設や商業施設の利用者に配付したほか、公共施設等に配架、留置きをお願いし、ウポポイに対する国民理解、認知度の向上に努めた。

(5) 遺骨・慰霊について

①慰霊施設における鎮魂式並びにカムイノミ・イチャルパ

慰霊施設に集約された、国内の12大学、5博物館、ドイツ、オーストラリア、イギリス（エジンバラ）から返還されたアイヌ遺骨の鎮魂式並びにカムイノミ・イチャルパを実施した。

- ・令和7年10月13日（日） ウポポイ慰霊施設（白老町）

②研究倫理検討委員会準備会並びにラウンドテーブル

- ・アイヌ民族に関する研究倫理指針の検討を継続した。（委員：木村理事／貝澤局長）

③国内博物館（18館）保管のアイヌ遺骨及び副葬品のウポポイ慰霊施設への集約

- ・令和7年10月6日 北海道博物館保管のアイヌ遺骨5体がウポポイ慰霊施設に集約される。墓所前に花束、供物を供え献花式を執り行った後、墓所内に納められた。

(6) 農林漁業対策の推進

平成8年度以降のアイヌ農林漁業対策事業推進のため、北海道知事が定める「アイヌ農林

漁業対策基本方針」の検討が行われ、当協会に意見を求められたことから、次のとおり意見書を提出した。

- ・予算の増額並びに地域や業態などの事情に沿った整備事業・推進事業の弾力的な運用を認めていただきたい。
- ・アイヌ農林漁家の中には、経営が小規模であるとともに3戸以上の条件を満たせない地区が存在し、その活用の道が閉ざされている現状にあり、一般的基準（1戸以上）に緩和していただきたい。
- ・経営近代化施設整備事業において調達の必要な機材等が、利用頻度や費用対効果など利用実態が反映されない基準等により申請を断念せざるを得ないケースが生じている。
- ・総事業費にかかる消費税が全額受益者側の負担となっており、この負担が大きいことから消費税負担額の軽減をいただきたい。

(7) 住宅対策の推進

住宅資金貸付額の増額など制度の見直しを求めた。

(8) 先住権、人権に係わる機関・組織等に対する働きかけ

- ① 法務省の啓発動画「アイヌの人々の人権に関する啓発動画「アコロ青春 a=kor アコロ」や各種人権啓発情報を提供し、人権思想の普及・啓発に努めた。
- ② アイヌ民族の先住域である千島、樺太、北海道などの歴史的な実証資料や図書資料の収集に努めた。
- ③ 「FSC森林認証制度における管理木材リスク評価」について
「製紙会社が調達する北海道産木材がアイヌの伝統文化継承を阻害するような森林伐採に由来しないか、或いは森林域においてアイヌ文化の振興・発展にどのような支援が必要か」といった観点から製紙会社（王子製紙／日本製紙）が実施するヒアリングに道協会・関係地区協会が協力した。
また、森林管理局の行う森林計画樹立における地元意見交換会への協力やFSCジャパンの受託事業者（プリファードバイネイチャー）への協力を通じてより実効的な森林認証制度となるよう働きかけた。

(9) 自主的啓発活動の推進

平時、内外からの照会に応じて啓発活動の推進に努めた。

あわせて広報紙、冊子、チラシ、道の啓発誌、DVDなどをとおして、平時継続的な周知を図った。

(10) ホームページの充実

当法人のホームページによりアイヌ協会の活動方針や各種資料、最新の情報提供に努めた。また、新規会員募集についての情報提供を行った。

(URL : <http://www.ainu-assn.or.jp>)

また、アイヌヘイトに対する3学協会の各声明や、内閣官房アイヌ総合政策室主導によるアイヌの方々に対する誹謗中傷等インターネット上の書き込み等に関する相談・連絡窓口を掲載するなど、ヘイトスピーチに対して断じて許容しないという姿勢を明確に示した。

(11) 「アイヌ文化交流センター」の運営への協力

東京都に設置されている「アイヌ文化交流センター」と相互協力連携を図った。

(12) 道外在住アイヌに対する施策実現への働きかけ

総合的なアイヌ政策を推進していくため、関東域の関係団体・個人と連絡を密に情報を共有を行った。

- (13) 北海道大学アイヌ・先住民研究センターとの事業連携
同センター実施事業に役職員が参加した。また、センター教員から当協会事業に対する助言や協力を得た。
- 国際シンポジウム「あなたたちはひとりではない」
ー先住民族の“声”から見る文化遺産と返還
・日 時：2025年12月7日（日）9:00～17:00
　　＜報告12「アイヌ遺骨の国際返還の取り組み：成果と課題」＞
・場 所：北海道大学学術交流会館2階
・参加者：小川副理事長、結城理事、藤原理事、木村理事、事務局（菊田・貝澤）
- (14) 北海道博物館（アイヌ民族文化研究センター）とも連携を密にし、事業の推進に協力した。
- (15) 教科書等のアイヌ民族に関する調査研究
内閣官房が主催する「アイヌに関する教科書編集セミナー」（令和7年11月20日）に理事長が出席し挨拶を述べた。
- (16) 教育相談員の配置等
既存の北海道教育庁、市教育委員会に配置されている教育相談員と協力・連携し、地元の意向に即した支援を行った。
- (17) 図書・刊行物等の過誤対応
アイヌ民族の歴史や文化に関する刊行物（観光資料）の記述内容の確認などに適宜対応した。また、（公社）北海道観光振興機構に設置された「アイヌ文化分科会」など関係機関とも連携協力し、ボランティアガイド等の研修会を通じて正しい知識の普及に努めた。
- (18) アイヌ民族の理解促進と歴史や文化に関する対外的な発信
①コンサドーレ北海道・北海道・アイヌ協会の三者協定の目的に沿ってアイヌ文化発信の機会を設け、アイヌ工芸品等の展示を行った。
日時：令和8年2月28日（土）11:00～14:00
場所：大和ハウスプレミストドーム（札幌ドーム）
②北海道どさんこプラザ羽田空港店内（北海道情報発信PRコーナー）において、北海道アイヌ伝統工芸展受賞作品の展示を行った。

2 組織の強化

(1) 団体会員等との連携強化

アイヌウタリが一致団結した組織活動を展開するため、過去の不祥事を教訓に二度とくり返さぬよう常に心に刻むこととし、各地区協会（団体）や会員（本会員）への情報提供や共有を図った。

各地区協会の総会、地区協会事業等に協会役員が出席した。

<参加地区、出席役員一覧表>

※各地区協会からの案内通知、報告から掲載

期	日	行 事 名	出席役・職員
令和7年	4月 4日(金)	標津アイヌ協会総会	
	4月 6日(日)	帯広アイヌ協会総会	理事長
	4月11日(金)	阿寒アイヌ協会総会	

期	日	行 事 名	出席役・職員
	4月13日(日)	上士幌アイヌ協会総会	
	4月14日(月)	弟子屈アイヌ協会総会	
	4月18日(金)	登別アイヌ協会総会	
	4月20日(日)	平取アイヌ協会総会	理事長
	4月20日(日)	網走アイヌ協会総会	
	4月20日(日)	苫小牧アイヌ協会総会	
	4月20日(日)	白糠アイヌ協会総会	
	4月24日(金)	釧路アイヌ協会総会	
	4月25日(金)	白老アイヌ協会総会	
	4月26日(土)	ㇿㇿㇿㇿㇿㇿ(浦幌アイヌ協会)総会	
	4月27日(日)	新冠アイヌ協会総会	
	4月27日(日)	様似アイヌ協会総会	
	5月 2日(金)	ㇿㇿㇿㇿㇿㇿ(浦幌アイヌ協会)臨時総会	
	5月10日(土)	芽室アイヌ協会定期総会	副理事長
	5月10日(土)	第13回シベチャリ武四郎まつり	
	5月14日(水)	室蘭アイヌ協会総会	
	5月23日(金)	伊達アイヌ協会総会	
	5月	旭川アイヌ協会総会(議案書配布)	
	5月31日(土)	第7回十勝川サロルンリムセ	理事長
	6月 1日(日)	札幌アイヌ協会総会	
	6月 1日(日)	弟子屈 第9回パリモモ祭り	
	6月15日(日)	新ひだか 第37回イチャルパ	
	7月 5日(土)	第32回コシャマイン慰霊祭	副理事長
	7月 6日(日)	洞爺湖町チセノミ・イチャルパ	理事長
	7月 6日(日)	恵庭 シラチセカムイノミ	副理事長
	7月13日(日)	八雲 カムイノミ・イチャルパ	理事長
	7月26日(土)	豊浦 カムイノミ・イチャルパ	副理事長
	7月27日(日)	網走 チパシリアイヌイチャルパ祭	
	8月 3日(日)	白糠 第47回 ふるさと祭イチャルパ	
	8月 3日(日)	帯広 アイヌ共同納骨堂慰霊祭	副理事長
	8月9日(土)	第21回白老アイヌ碑供養祭	

期	日	行 事 名	出席役・職員
	8月13日(水)	八雲アイヌ先駆者鎮魂の碑供養	理事長
	8月17日(日)	浦幌 ラホロアイヌイソクカムイノミ・イチャルパ	
	8月24日(日)	幕別2ヶ所共同墓地慰霊祭	副理事長
	8月29日(金)	第35回 阿寒町納骨堂イチャルパ	
	8月30日(土)	第54回 春採コタン祭り	
	9月 7日(日)	帯広チヨマトー祭り	副理事長
	9月 7日(日)	日高 無縁佛供養祭	
	9月 7日(日)	浦幌 第7回アシリチェブノミ	
	9月13日(土)	札幌アシリチェブノミ	副理事長
	9月14日(日)	白糠 第30回フンペ祭りイチャルパ	
	9月15日(月)	本別イチャルパ	常務理事
	9月18日(木)	新冠 第43回無縁墓供養法要イチャルパ	
	9月19日(金)	釧路町 吉良平治郎 慰霊祭	
	9月21日(日)	根室 第49回ノッカマップイチャルパ	副理事長
	9月23日(火・祝)	静内 シャクシャイン法要祭	副理事長
	9月24日(水)	平取町・二風谷国際先住民フォーラム	理事長、副理事長
	9月27日(土)	釧路 第44回 カムイチェブ祭	
	9月28日(日)	帯広 第9回 マレック漁	
	10月 5日(日)	厚真 カムイノミ・イチャルパ	理事長
	10月16日(水)	恵庭アイヌ協会総会	
	10月24日(日)	国際口琴大会in阿寒湖アイヌコタン	副理事長
	11月 2日(日)	白糠 第46回ししゃも祭り	
	11月13日(木)	八雲アイヌ協会との打合	理事長
	11月13日(木)	伊達アイヌ協会との打合	理事長
令和8年	1月	長万部アイヌ協会総会（議案書配布）	
	1月11日(日)	千歳 アシリパノミ	理事長
	2月21日(土)	平取 シシリムカアイヌ文化祭	理事長
	2月25日(水)	八雲アイヌ協会総会	理事長

(2) アイヌ施策推進法によるアイヌ施策の推進

アイヌ施策推進法に基づく施策の推進に国民理解を深めていただくため、国民を代表する国会議員にご理解とご協力をお願いした。

(3) 会員研修事業

「会員研修会」

今年度は協会創立80周年の節目の年に当たることから、会員研修会を協会創立80周年記念事業と位置づけ、令和8年2月14日、15日の両日、地区協会代表者により実施した。

第1日目「新法の見直し等国におけるアイヌ政策の推進状況」内閣官房アイヌ総合政策室
記念講演「先住民族アイヌの形成と歴史」国立科学博物館長 篠田謙一氏

第2日目「これからのアイヌ民族研究のあり方等 ～3学協会の研究分野から～」
「次期「北海道アイヌ政策推進方策」等について」道アイヌ政策課
「法人の活動・組織強化等について、意見交換・自由討議」

(4) 地区別懇談会

今年度、次のとおり、3地区で開催しました。

○概要

今後の協会の取組等について

- (1) 新法施行後5年後見直し等アイヌ施策の進捗状況
 - ・新法制定5年後見直しの進め方
 - ・アイヌ政策の推進状況
- (2) 主な事業の取組について
- (3) 意見交換・情報共有

○実施地区及び時期

- ①八雲アイヌ協会 令和7年11月12日(水)～13日(木)
- ②伊達アイヌ協会 令和7年11月13日(木)
- ③函館アイヌ協会 令和8年1月12日(月・祝)

(5) 青年女性対策の推進

「青年・女性の集い／アイヌ関係各種相談員特別研修会」

日時：令和7年11月8日(土)、9日(日)

場所：平取町二風谷生活館、アイヌ工芸伝承館ウレシパ等

内容：交付金事業の取り組み、施設見学、青年部活動の紹介、講演、意見交換等

参加者：40人

(6) 各種相談員の合同研修会

日時：令和7年7月14日～15日

場所：かでの2・7

内容：初任者研修(相談員就任歴1～2年)

研修①「講演 差別的言動規制の現在」

講師：北大アイヌ・先住民研究センター 落合研一准教授

研修②「講演 アイヌヘイトの主張はどう誤っているか」

講師：山梨大学 大学院総合研究部 医学域法医学講座 安達 登 教授

情報提供(法務省札幌法務局、北海道環境生活部アイヌ政策推進局アイヌ政策課、北海道アイヌ協会)

グループ討議、意見交換

参加者：研修会36人、初任者研修5人

(7) 連帯意識の高揚

各種貸付金の返還について、各個人の責任において必ず履行されるよう償還義務の確認、連絡徹底に努めた。また、償還が滞っている地区協会と連携し償還督促に努めた。

(8) 生活館活動

各地域において生活館活動が実施された。

(9) 市町村への働きかけ

アイヌ施策推進法に基づく新しい交付金事業について情報提供と活用を促した。

また、理事長が関係自治体を訪問し、アイヌ施策の推進と推進体制が充実するよう働きかけを行った。

- ・ 令和7年 4月 3日 松前町（クナシリ・メナシ関係用地視察）
- ・ 令和7年11月13日 八雲町長、長万部町長、伊達市長への表敬
- ・ 令和8年 1月30日 函館市長との面談

(10) 財政基盤の強化

会費収入は減少傾向（本会員の減）にあり、賛助会員、寄付金などの自主財源の確保に努め、44団体（109口、1口10,000円）、14個人（18口、1口3,000円）の賛助会員の協力を得た。

3 会務の運営

(1) 理事会、アイヌ協会役員研修・連携会議の開催

総会で議決された事項及び会務の執行を適正かつ効果的に推進するため、理事会を年4回、役員研修・連携会議を5回（うち1回は雪害で中止）開催した。

また、必要に応じて適宜三役会議を実施した。

<理事会>

回	数	開	催	日	場	所
第 1	回	令和7年	5月	8日（木）	札	幌 市
第 2	回	令和7年	8月	26日（火）	札	幌 市
第 3	回	令和8年	1月	27日（火）	※雪害のため書面議決	
第 4	回	令和8年	3月	31日（火）	札	幌 市

<役員研修・連携会議>

回	数	開	催	日	場	所
第 1	回	令和7年	5月	7日（水） 8日（木）	札	幌 市
第 2	回	令和7年	8月	25日（月） 26日（火）	札	幌 市
第 3	回	令和8年	1月	26日（月） 27日（火）	※雪害のため中止	
特 別 開 催 (創立80周年記念)		令和8年	2月	14日（土） 15日（日）	札	幌 市
第 4	回	令和8年	3月	30日（月） 31日（火）	札	幌 市

(2) 監事監査の実施

当会の財務規程に沿って2回の監査を実施した。

令和7年度の執行部の業務や会計事務の適正執行に努め、監事監査とともに公認会計士による監査を実施した。

- ・第1回会計監査：令和7年12月17日(水)
- ・第2回会計監査：令和8年 4月24日(金)
- ・公認会計士監査：令和8年 4月24日(金)

2 事業の推進

(1) 社会的地位の向上に関する啓発と施策の推進

先住民族アイヌに関する知識の普及と理解促進のため、一般市民及びアイヌ当事者に対し、国際人権規範や人種、民族等に係る情報収集や対面交流等、適切かつ効果的手法により各種広報・啓発を行った。

① 広報紙「先駆者の集い」の発行

年2回(B5版p.8) ※161号のみB5版p.12

各4,000部発行。協会団体会員本会員、賛助会員や行政機関、研究者等に無料配付した。

② ホームページによる情報発信

当協会ホームページにより、先住民族アイヌの情報(組織概要、アイヌ史年表、国連活動、民芸品事業者、観光ガイド等)を発信した。

③ 「令和7年度 国際先住民族の日記念事業」

アイヌ協会会員研修会を兼ねて実施し、3学会(日本人類学会、日本考古学協会、日本文化人類学会)から発出されたアイヌヘイトに対する共同声明(令和8年12月15日)についての報告と今後の研究のあり方などについて意見交換を行った。

- ・日時：令和8年2月15日(日) 9:30~11:00
- ・場所：札幌国際ホール

④ アイヌ文化パフォーマンス発信事業

2021年に開催された東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会で披露した舞踊パフォーマンスをレガシーとし、アイヌ文化を国内外へ発信することを目的として、演者のパフォーマンススキルや演出理解度・習熟度についての磨き上げを行うとともに、アイヌ民族文化財団主催の「アイヌ文化フェスティバル(苫小牧)」、「イランカラプテキャンペーン(名古屋)」において舞踊パフォーマンスを披露した。さらに、2月14日開催の協会創立80周年記念祝賀会においてアイヌ舞踊を披露した。

また、2025年大阪・関西万博におけるアイヌ文化発信については、アイヌ文化発信会議において出演団体を募集決定し、具体的な演出構成や形態、方法については、出演団体等で構成される「演出会議」を組織し協議決定するとともに、舞台制作のサポート役をパラルチームが担い、関係機関の強力な連携サポートのもと、総勢219名の舞踊者による3チーム3部構成で、舞踊公演を披露することができた。

(2) 各種貸付金の貸付

福祉(緊急使途支援)、環境整備(浴室、墓碑整備)、入学一時(大学、私立高校、専修学校)を、道内に居住するアイヌの生活向上や生活環境整備の支援のために、使途に応じて各種貸付を行った。

①福祉資金

- ・貸付限度額10万円以内 20件（2,000,000円）の活用があった。

②環境整備資金

○浴室整備資金

- ・貸付限度額20万円以内1件（197,000円）の活用があった。

○墓碑整備資金

- ・貸付限度額30万円以内0件（0円）

③入学一時資金

○大学入学一時資金

- ・貸付限度額30万円以内2件（460,000円）の活用があった。

○私立高校一時資金

- ・貸付限度額20万円以内0件（0円）

○専修学校一時資金

- ・貸付限度額30万円以内0件（0円）

(3) 職業の確立及び教育の振興に関する施策の推進

道内居住アイヌの就労、就職に係る技能向上や各種免許取得等の所要経費の助成並びに就職相談や求人開拓等に携わるアイヌ雇用推進員設置による指導、アイヌ民工芸品生産者を対象に販路拡大や就業支援、技能向上などの各種支援策を推進した。

①就職奨励事業

○就労や就職に係る支度費用や就職条件のための「就職支度資金」、「自動車等免許取得資金」などの所要資金を助成した。

- ・就職支度資金 0円 0件（0円）
- ・技術習得資金50,000円以内 11件（546,000円）

②アイヌ雇用促進事業

○アイヌの雇用促進に対処するため雇用推進員を設置、就労・就職相談や求人開拓等によりアイヌの雇用と生活安定の促進を図った。

- ・全道13カ所のハローワークに雇用推進員を配置し、当該業務に従事した。
延べ351日間の活動で357件の相談を受理、31件の就職・求人に結びつけた。

令和7年度活動実績は次のとおり。

項目		月別												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
1. 活動日数		29	29	29	30	29	29	30	29	29	28	30	30	351
2. 相談 件数	1) 求職者相談件数	29	31	31	34	27	28	30	28	29	30	31	29	357
	有効求職者	19	16	18	21	19	17	17	17	15	16	20	19	214
	新規学卒者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	その他	10	15	13	13	8	11	13	11	14	14	11	8	141
	2) 事業所相談件数	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	11
	一般求人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	新規学卒者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	1	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	1	11
3. 安定所に取 次いだ件数	求職取次	4	4	6	6	7	5	5	7	7	6	5	5	67
	求人取次	0	0	0	0	0	2	0	0	1	1	0	1	5
4. 職場適応指導件数		2	3	2	1	0	1	1	0	2	2	0	0	14
5. 安定所に取次いだ求人情報のうち求人受案件数 (求人数)		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6. 就職に至った件数		3	3	3	1	5	2	2	2	3	3	2	2	31

③アイヌ中小企業経営改善指導事業

アイヌ事業者の事業活動の促進と経営安定化を図るため、各地区協会並びに個人事業所宛てに経営相談等の希望を募り、経営相談を6回実施した。

④アイヌ中小企業振興対策事業

○アイヌ民芸品生産者の販路拡大や後継者育成、さらには新製品開発や需要喚起、民芸等の製作技術や文化の普及・理解促進のために行う作品展示、製作実演・体験、販売などによる「民芸品展示・販売会」を開催した。

開催地	場 所	期 間	体験講師／実演者
千歳市	新千歳空港 ターミナルビル 2階	令和 7年 10月14日～ 10月16日	体験講師：石井美香、貝澤竹子 実 演 者：荒木 繁、吉田信男 宮川正子
	新千歳空港 ターミナルビル 2階	令和 7年 11月26日～ 11月30日	体験講師：貝澤竹子、阿部紘美 実 演 者：長縄由加利、石井美香 宮川正子
	新千歳空港 ターミナルビル 2階	令和 8年 3月 4日～ 3月 8日	体験講師：長縄由加利、宮川正子 実 演 者：荒木 繁、貝澤竹子、石井美香 阿部紘美、関根真紀
白老町	ウポポイ インフォメーシ ョンセンター	令和 7年 10月 2日～ 10月 5日	体験講師：荒木 繁 実 演 者：吉村政彦
東京都	東京交通会館 イベントスペ ース	令和 8年 1月13日～ 1月16日	体験講師：吉村政彦 実 演 者：荒木 繁

○博物館の民族資料の熟覧・講習受講等による知識・技能等の向上、先進地視察や国立民族学博物館の外来研究、技術指導受講などによる研鑽、調査研究及び経営研修などを進める「工芸者技術研修」を行った。

<道外研修>

国立民族学博物館に外来研究員としての受け入れを依頼し、アイヌ工芸者の技術向上とアイディアの開発、さらにはアイヌ工芸品の振興発展を目的に研修を行った。

- ・研修期間：令和7年11月25日(火)～令和7年12月8日(月)
- ・参加者：久保田 明秀(木彫)(千歳)

<道内研修>

①道内調査研究

国立アイヌ民族博物館において、収蔵資料を熟覧調査した。

- ・研修期間：令和6年12月～令和7年3月(計5回)
- ・参加者：菊田 秀子(刺しゅう)(伊達)
- ・報告会：研修終了後、研修報告会を実施した。

②道内技術研修

アイヌ工芸者の技術向上と経営手法を習得するため、熟練工芸作家による技術指導と経営や販売促進に関する研修を実施した。

- ・研修期間：令和6年12月～令和7年3月(計6回)
- ・講 師：①技術指導(刺しゅう)優秀工芸師 岡田 育子

②経営セミナー 中小企業診断士 大留 光博

- ・参加者：桑原 由恵(刺しゅう)(長万部)/西山 亜美(刺しゅう)(標津)
今 真規(刺しゅう)(札幌)
- ・報告会：研修終了後、研修報告会を実施した。

(4) 民族文化の保存・伝承及び発展に関する施策の推進

①第59回北海道アイヌ伝統工芸展

- ・期間 令和8年2月6日(金)～10日(火)
- ・場所 かでる2・7 1階展示ホール
- ・参加地区数 11地区協会(28人)
- ・出品数及び 伝統工芸品部門 19点 一般工芸品部門 25点 計 44点
- ・審査委員 元道立近代美術館学芸部長 浅川 泰
(敬称略) 北海道立総合研究機構主査 印南 小冬
北海道博物館学芸主査 大坂 拓
北海道アイヌ協会優秀工芸師 堀 悦子
北海道アイヌ協会優秀工芸師 貝澤 徹
北海道アイヌ協会優秀工芸師 岡田 育子
- ・受賞者一覧

	伝統工芸品部門			一般工芸品部門		
	作品名	地区名	氏名	作品名	地区名	氏名
最優秀賞 (※1)	メノコマキリ	平取	岡本 朋也	飛蝶樹	平取	平村 太幹
優秀賞 (※2)				二風谷アットウ シ八寸帯	平取	藤田 由貴
優秀賞 (※3)	カパラミプ	札幌	光野 智子			
優秀賞 (※4)	木綿地切伏 刺しゅう衣装	伊達	菊田 秀子	2wayバッグ	札幌	長縄由加利
奨励賞	ルウンペ	白老	吉国 幸子	チヂリ タペストリー	八雲	溝口 正枝
同	マキリ	札幌	居橋 朗	カパラミプ タペストリー	八雲	椎久のり子
同	ルウンペ	長万部	桑原 由恵	エムシアッ サパンペ	札幌	吉田 征恵
同	サラニプ	札幌	長縄由加利	サラニプペット ボトルホルダー	むかわ	泉 美智穂
同	イタ	千歳	久保田明秀	刺繍インテリア	旭川	坪坂ルミエ
同	ホシ(脚絆)	札幌	荒木ハル子			

- ※1 最優秀賞（北海道知事） ※2 優秀賞（北海道議会議長）
※3 優秀賞（北海道教育委員会教育長） ※4 優秀賞（かでの賞）

②アイヌ民俗文化財伝承・活用事業（道教委委託事業）

○アイヌ民俗文化財理解のための用語や伝統技術の習得、民俗芸能の伝承等の講座を開設し一般市民及びアイヌ同胞への伝承普及等を図った。

- ・アイヌ民俗技術伝承講座 6会場（白老/むかわ/旭川/帯広/釧路/鶴居）
- ・アイヌ民俗芸能伝承講座 4会場（白老/むかわ/八雲/釧路）
- ・アイヌ民俗技術・芸能伝承講座発表・展示
令和8年1月25日（日）、むかわ町にて実施

③アイヌ民族文化祭2025

民族文化の伝承と発展を図るため、「アイヌ民族文化祭2025」を開催した。

- ◆開催日時：令和7年8月30日（土）
- ◆開催場所：根室市総合文化会館
- ◆入場者数：100人（関係者、出演者等を含む）
- ◆内 容：

主催者挨拶 理事長 大川 勝

来賓挨拶 根室市長 石垣 雅敏

文化公演Ⅰ

アイヌ文化との交流 アイヌ古式舞踊の披露

北海道アイヌ古式舞踊連合保存会

・白糖アイヌ文化保存会

講演Ⅰ

先住民族アイヌの歴史について考える

「クナシリ・メナシの戦いと近年見つかった集落遺跡について」

講師 根室市歴史と自然の資料館 学芸員 猪熊 樹人

講演Ⅱ

道東のアイヌ文化について考える

「釧路地域でのアイヌ古式舞踊の継承

-企画展「リムセヤンウポポヤン」の成果から-

講師 釧路市立博物館 学芸員 城石 梨奈

文化公演Ⅱ

アイヌ古式舞踊の披露

北海道アイヌ古式舞踊連合保存会

・帯広カムイトウウポポ保存会

④ウポポイ園内アイヌ舞踊等披露発信事業

各保存会に地域で伝承してきた古式舞踊をウポポイの体験交流ホールで披露していただきアイヌ文化の発信と理解促進を目的に実施した。

- ・参加団体 13保存会
- ・実施時期等 通常公演 6月から1月 15回 及びイベント公演 周年 7月 夏 8月
シルバーウィーク 9月 無料開放 11月 冬 2月
(通常公演 1団体 1回土日の2日間。1日2公演。1公演30分を基本)
(イベント公演 2団体 1日或いは2日間。1日2公演。1公演30分)
- ・観客数 総観客数 11,064人
(1公演当たり観覧者数平均 通常公演 約140人 イベント公演 約190人)

⑤アイヌ工芸inみんなく

- ◆開催日時：令和7年12月4日（木）～12月7日（日） 10:00～17:00
- ◆開催場所：国立民族学博物館 エントランスホール
- ◆参加者：荒木 繁、山本みい子
- ◆内 容：アイヌ協会優秀工芸師の作品を紹介と体験ワークショップを通じて、アイヌ文化の理解と工芸品の普及啓発、さらには工芸作家の技術交流を深めた。

(5) 諸民族との交流及び情報交換

①国内文化交流事業

○文化理解の促進と伝承活動の活性化を図るため、アイヌ古式舞踊の保存団体を招聘した「芸能交流会」を開催し、各地に伝わる舞踊や歌、楽器演奏等を一般市民やアイヌ同胞に紹介した。

- ・日 程：令和7年9月23日（火・祝）
- ・場 所：真歌公園広場（新ひだか町静内真歌）
- ・出 演：11保存会（123名）

○後継者の育成とアイヌ文化等の理解促進を図るため、「優秀工芸師」による「優秀工芸師秀作展示交流会」を開催し秀逸な作品の展示、技術指導を行った。

- ・日 程：令和8年2月6日（金）～9日（月）
- ・場 所：かでる2・7 1階展示ホール
- ・実演者：優秀工芸師 7人

(6) 道立アイヌ総合センターの管理

北海道条例に基づき指定管理者として道立アイヌ総合センターの指定管理業務を行った。

○一般市民に対しアイヌ民族への理解を深めるため、常設展示や関係図書、史・資料の利活用の促進を図った。施設空間の活用などによりアイヌ文化の体験学習や講習会を実施、伝承と保存活動を推進した。

令和7年度アイヌ総合センター学習事業実績

講 習 名	日 程	講 師 名	延べ人数
アイヌ刺しゅう講習会（初級①）	7月 3日、7月10日 7月17日、7月24日	北嶋由紀	56人 (14人×4回)
アイヌ刺しゅう講習会（初級②）	11月 6日、11月13日 11月20日、11月27日	北嶋由紀	44人 (11人×4回)
アイヌ刺しゅう講習会（中級）	9月 4日、9月11日 10月9日、10月16日、 10月23日	北嶋由紀	85人 (17人×5回)
合 計			185人

○自主事業等の実施

（自主企画事業）

- ・アイヌ民工芸品（北海道アイヌ伝統工芸展受賞作品）をアイヌ総合センター内に展示し、優秀作品の鑑賞機会の提供と伝承技術の奨励を促進した。

(広報活動等)

- ・アイヌ協会ホームページ、講習会周知、かでの広報への施設案内・行事の周知を行った。

(7) 人種、民族に関する調査研究及び提言

先住民族アイヌに関する文化的伝統や慣習、歴史、言語、文化遺産、文化的表現を保持、管理、保護し、発展させるため、必要な情報収集に努めた。

①アイヌ民俗文化財調査事業 道教委委託事業

○故金成マツ筆録、ユカラ翻訳整理及び伝統的な生産業、民俗技術、口承文芸などの調査を行った。

- ・萱野茂二風谷アイヌ資料館保管の金成マツノート中、2話の翻訳整理と原稿化。

表記法等：(筆録原文音素表記・アイヌ語カナ表記・邦逐語訳/対訳) 2編。